



日本パラグライダー協会

2017 年度

JPA オーガナイザーハンドブック

Ver. 7.00

 [変更項目](#)

JPA オーガナイザーハンドブック 2017

このオーガナイザーハンドブックは、日本パラグライダー協会（JPA）公認大会における、主催者の運営のために作成されています。

はじめに

JPA 公認大会を行う主催者は、競技大会が安全かつ円滑に運営されることを常に配慮し、選手の育成を目的とし、以下の項目に沿って運営されなければならない。

☞ 変更項目

目次

1	概要	4
2	大会の承認	4
3	公認申請の方法	4
4	大会開催日程	5
5	競技ルール	5
6	追加措置	5
7	大会役員構成	5
7.1	大会役員の役割と責任	5
8	大会開催に関する規則	6
8.1	航空法	6
8.2	募集定員と機材使用料金	6
8.3	選手懇談会	6
8.4	タスクセッターのガイドライン	6
8.5	保険	7
8.6	施設に関する規則	7
8.7	PWC チャレンジ選手育成基金	7
9	エントリー受付	7
9.1	受付	7
9.2	セレクション	8
9.2.1	JPA パラグライダー・ナショナル・リーグ	8
9.2.2	JPA パラグライダー・N2・リーグ	8
9.2.3	JPA パラグライダー・チャレンジ・リーグ	9
9.3	エントリーフィー	10
9.4	ファイナルイベント招待・優待選手	10
9.4.1	PNL ファイナルイベント招待選手	11

9.4.2	N2L ファイナルイベント招待選手.....	11
9.4.3	N2L ファイナルイベント優待選手.....	11
9.4.4	PCL ファイナルイベント招待選手.....	11
9.4.5	PCL ファイナルイベント優待選手.....	11
9.5	主催者費用.....	11
10	本部施設.....	12
10.1	本部施設(必ず屋内とする).....	12
10.2	テイクオフ設備.....	12
10.3	ゴール設備.....	12
11	競技に関する規則.....	13
11.1	スコアリング.....	13
11.2	ソフトウェア.....	13
11.3	競技規則の変更.....	13
11.4	公式掲示.....	13
11.5	ブリーフィング.....	13
11.6	ペナルティー.....	13
11.7	タスクセット.....	14
11.8	安全について.....	14
11.9	安全確認.....	14
11.10	タスクボードへの記載事項.....	14
12	救助方法.....	14
12.1	目的.....	14
12.2	事故の通報後.....	14
12.3	事故現場到着後.....	14
12.4	怪我人の保護と救助.....	15
13	大会報告書.....	15

1 概要

公認大会ルール、大会公認申請用紙、主催者への注意事項は JPA ホームページ上で適時更新されるので、主催者は確認し常に新しい情報を収集すること。（競技事業部からの公式発表は全てホームページより行われる。）

2 大会の承認

主催者から提出された開催申請に対して、JPA（日本パラグライダー協会）競技事業部にて公認大会ルールに沿って検討され、問題がなければ承認される。開催について変更箇所が指摘されれば、主催者はこれに従って変更しなければならない。

3 公認申請の方法

大会の公認を希望する主催者は以下の項目を含んだ JPA 所定の申請書を提出しなければならない。

- ・ JPA 正会員または JPA 正会員の推薦があること
- ・ 主催者の住所と大会本部の設置場所
- ・ フライトエリア名、住所
- ・ 大会実行委員長名、競技委員長名
- ・ 大会日程
- ・ 予備日を設定する場合には、その旨と予備日使用のためのルールを開催要項に明記すること
- ・ 天候による開催延期が可能な場合は開催要項にて事前に告知しなければならない
- ・ 大会役員構成
- ・ 本部施設
- ・ 宿泊施設の情報
- ・ 選手の輸送方法
- ・ 大会スケジュール
- ・ ローカルルール
- ・ ターンポイントとその座標が記載されたエリア地図（5 万分の 1）
- ・ 予定タスクとその距離
- ・ 緊急時の救急チャート

JPA 所定の大会公認申請用紙に必要事項を記入し大会開始 3 ヶ月前までに JPA 事務局に郵送またはファイル (Word, Excel, Access)にて提出のこと。

選手への案内郵送の為に選手データが必要な主催者は、申請用紙に必要事項を記入し大会申請時に提出すること。このデータは、あくまでも大会開催においてのみ使用すること。

ただし、JPA が予め認めた形式の大会開催は、別に定める開催要領に従うものとする。

4 大会開催日程

大会期間は連続した日とする。

5 競技ルール

JPA 公認大会規定に基づいて行われる。ローカルルールがある場合は、JPA 競技事業部で承認される必要がある。ローカルルールは事前に参加選手に広報されること。

6 追加措置

主催者は大会開催の旨を地元メディアへ伝え、取材してもらうことで広報に努める。気象条件によりレースを行う事が不可能とされるときには、追加の競技を地元、そしてメディアの為に行わなければならない。又、フライト不可能な日には他の提案をすること。

7 大会役員構成

実行委員会は下記に合わせて役員を構成しなければならない。

(以下の役員については選手が兼任しないこと)

- ・ 大会実行委員長
- ・ 大会競技委員長
- ・ テイクオフディレクターとテイクオフスタッフ
- ・ ゴールディレクターとゴールスタッフ
- ・ 本部役員（気象情報や成績結果の表示）
- ・ GPS スコアリング・オペレーターとその助手
- ・ Livetracking 監視 PC オペレーター(本部監視 1 名)
- ・ 選手輸送責任者
- ・ 気象情報収集責任者
- ・ 広報担当者
- ・ 救助活動責任者とそのスタッフ（日赤救急員、消防署での講習を受講していること）
- ・ 必要に応じて気象状況を監視する担当者
- ・ 撮影担当役員
- ・ 報告書担当役員（JPA の HP および雑誌掲載記事用のレポートの提出をする）

7.1 大会役員の役割と責任

大会本部の役割

- ・ 選手受付
- ・ 大会進行の全体の把握
- ・ 選手輸送責任者と共同して、配車手配
- ・ 本部の PC 等で、気象概況をアメダス等で毎時間チェックし、競技委員長へ報告する
- ・ GPS 無線機と Livetracking 監視 PC オペレーター（車載監視 2 名）
- ・ 選手懇親会（ドリンクパーティー等、選手間の歓談の場を設ける）の手配・準備

- ・開会式・閉会式・表彰式会場の進行手配
- ・緊急時の連絡網、他手配
- ・表彰状への選手の名前の記入
- ・スタッフ食事手配

実行委員長の役割

(大会運営の統括責任者)

- ・スケジュールの調整
- ・地元自治体、警察、消防との連絡調整
- ・大会が安全かつスムーズに進行するための運営を行う
- ・競技の進行を競技委員長と協力して進行する

競技委員長の役割

(大会の競技進行の責任者)

- ・競技が安全かつスムーズに行えるための決定を行う
- ・タスクコミッティー・セイフティーコミッティーと協議してタスクの決定を行う

競技事業部委員

- ・選手代表で、選手と主催者、実行委員長、競技委員長と話し合い競技が円滑にできるよう努める
- ・選手の要望を主催者、実行委員長、競技委員長に伝える役割がある

8 大会開催に関する規則

8.1 航空法

全ての公認大会においては、航空法を遵守した大会運営を行うこと。

8.2 募集定員と機材使用料金

最低募集定員を PNL 80 名、N2L 40 名、PCL 35 名とする。

ただし、競技事業部が承認した特別開催大会はこの限りではない。

8.3 選手懇談会

選手懇談会は、選手同士の歓談の場を提供することを目的とする。食事を目的とするものではない。

例) ドリンクパーティー

8.4 タスクセッターのガイドライン

タスクを決定することは、競技にとって適切であり安全を確保される重要な要素を持っている。

主催競技委員長は、以下の物を大会開催申請書に添付しなければならない。

- ・飛行領域の谷風の風向
- ・危険地帯（ケーブル、送電線等）がある場合には、地図上に明記することと説明文を加える
- ・通常的气象条件で予定される 2 タスクとタスク距離を明記すること。1 つはサーマルコンディションが優れている時。1 つはサーマルコンディションが弱い時
- ・ターンポイントリストとマップデータ WGS84 での GPS コーディネーション
- ・ターンポイントが記載されたパイロット用地図

8.5 保険

大会主催者は、1件1億円以上の施設賠償保険に加入していなければならない。JPA 正会員は大会主催において改めて加入する必要はないが、必要に応じて加入すること。

8.6 施設に関する規則

- ・ テイクオフはキャノピーの開傘を確認してからテイクオフ出来る程度に十分広いこと
- ・ テイクオフエリアは特別なテクニックを必要とせずテイクオフ出来る様に整備されていること
- ・ ランディングエリアは最小でも直径 50m の円がかける、ほぼ平面であること
- ・ ランディングエリアは参加選手の技量に応じたサイズのものとする
- ・ ランディングエリアは危険となるような穴、切り株、立木等の障害物がないこと
- ・ フライトコース内に安全に降ろせる緊急ランディング場が確保されていること
- ・ テイクオフおよびランディングエリアには最低 1 本以上の吹き流し（風見）を設置すること
- ・ テイクオフエリアに風速計を設置すること
- ・ フライト場所の使用許可を得ていること
- ・ フライトコース内の諸行政（役所、警察、消防署等）に対して、当該大会の告知をしておくこと
- ・ 緊急医療設備の把握、連絡体制を整えること

8.7 PWC チャレンジ選手育成基金

世界最高レベルであるパラグライダー競技会「Paragliding World Cup」に JPA から参戦する選手を育成し、遠征をサポートしていくシステム。PNL, N2L, PCL 主催者は、参加選手一人あたり 500 円を選手育成基金として可能な限り協力する。

9 エントリー受付

9.1 受付

主催者は以下の項目を確認すると共に選手受付を行わなければならない。

JPA より選手データを受け取り、選手の登録番号を基に選手受付を行う。

選手は、各リーグ登録時に飛行誓約書、使用グライダー誓約書、正会員スクール推薦状の提出が必要。シーズン途中において使用グライダーを変更する場合は参加希望大会開催 5 日間前までに「グライダー変更届」を所属スクールから JPA 事務局へ届けなくてはならない。

受付の手順

1. 開催要項掲載と同時に案内を登録選手に送る。受け付け開始。

↓

2. 大会開催 1 ヶ月前までに受付、入金される場合はエントリー費を -1000 円の早割対象とする。
(優待選手は早割対象外)

↓

3. 1 ヶ月前、募集定員を超えているようであれば、受け付け終了。受付した選手を主催者によるセレクションの後、競技事業部にてセレクションする。結果は JPA ホームページにて発表する。

↓

4. 受付入金したがセレクションされなかった選手のエントリー費に関しては、次大会エントリー費へ移行、または選手の希望により返金することもできる（返金の場合、振込手数料は選手負担とする）



5. 募集定員に達しない場合は、大会開催直前まで募集を続けるが、5 日前以降の受け付けはエントリー費の入金と同時に行う必要がある。

入金後のキャンセル報告期日を 5 日前とする。キャンセルの連絡が大会開催 5 日前までになかった場合はエントリー費を請求する。

9.2 セレクション

9.2.1 JPA パラグライダー・ナショナル・リーグ

9.2.1.1 PNL 各大会

① 主催者は大会運営上(安全管理等)の理由により、選手の受け入れ拒否することが出来る。

A) ①を除いた選手から、前年度 PNL 総合ランキング TOP15

B) 前年度 PNL女子ランキング TOP5

C) 前年度N2L総合ランキング TOP10

(N2L総合ランキングTOP30 以内で 10 名まで繰り上げる。ただし、PNL 総合ランキング TOP50 を除く)

D) 前年度 N2L の各大会における N2L総合優勝者

E) PNL ランキング順

② 特別枠（主催者枠等）

9.2.1.2 PNL ファイナルイベントセレクション

2.5 ファイナルイベントセレクション

① 主催者は大会運営上(安全管理等)の理由により、選手の受け入れ拒否することが出来る。

A) ①を除いた選手から当年度現時点までの PNL 総合ランキングTOP 3

B) 当年度現時点までの PNL 女子ランキングTOP3

C) 当年度 PNL 各大会PNL総合での優勝者

D) 当年度現時点までの PNL ランキング順

E) すべての申し込み選手から抽選

② 特別枠（主催者枠等）

9.2.2 JPA パラグライダー・N2・リーグ

9.2.2.1 N2L 各大会

① 主催者は大会運営上(安全管理等)の理由により、選手の受け入れ拒否することが出来る。

A) ①を除いた選手から、前年度N2L 総合TOP15

- B) 前年度N2L 女子TOP5
- C) 前年度PCL総合ランキングTOP10 (PCL TOP30 以内で10 名まで繰り上げる。)
- D) 前年度 PCL の各大会における総合優勝者
- E) 前年度N2L 総合ランキング順
- ② 特別枠 (主催者枠等)

9.2.2.2 N2L ファイナルイベントセレクション

① 主催者は大会運営上(安全管理等)の理由により、選手の受け入れ拒否することが出来る。

- A) ①を除いた選手から当年度現時点までのN2L 総合TOP3
- B) 当年度現時点までのN2L 女子TOP3
- C) 当年度N2L 各大会総合クラス優勝者
- D) 当年度現時点までのN2L 総合ランキング順
- E) すべての申し込み選手から抽選
- ② 特別枠 (主催者枠等)

9.2.3 JPA パラグライダー・チャレンジ・リーグ

9.2.3.1 PCL 各大会

① 主催者は大会運営上(安全管理等)の理由により、選手の受け入れ拒否することが出来る。

- A) ①を除いた選手から、前年度PCL 総合ランキングTOP10
- B) 当年度現時点までの PCL総合ランキングTOP10
- C) 前年度PCL 総合ランキング順
- D) すべての申し込み選手から抽選
- ② 特別枠 (主催者枠等)

9.2.3.2 PCL ファイナルイベントセレクション

① 主催者は大会運営上(安全管理等)の理由により、選手の受け入れ拒否することが出来る。

- A) ①を除いた選手から当年度現時点までの PCL 総合ランキングTOP 3
- B) 当年度現時点までのPCL 女子ランキングTOP3
- C) 当年度PCL 各大会PCL総合優勝者
- D) 当年度現時点までのPCL 総合ランキング順
- E) すべての申し込み選手から抽選
- ② 特別枠 (主催者枠等)

9.3 エントリーフィー

主催者は選手よりエントリーフィーを徴収して運営を行う。

PNL 以下の表により決定される（料金には JPA 専用無線機使用料を含む）

	大会 2 日間開催	大会 3 日間開催	大会 4 日間開催
JPA EX 証	20,000 円	23,000 円	28,000 円
前年度 PNL 総合ランキング TOP10	9,000 円	13,000 円	15,000 円
前年度 N2L 総合ランキング TOP 3	9,000 円	13,000 円	15,000 円
前年度 N2L 各大会 N2L 総合優勝選手 (当年度内 1 大会のみ)	9,000 円	13,000 円	15,000 円
学生 JPA EX 証	9,000 円	9,000 円	9,000 円

N2L エントリー費は以下の表により決定される。（料金には JPA 専用無線機使用料を含む）

	大会 2 日間開催
JPA パイロット証	15,000 円
PNL 総合ランキング TOP15	6,000 円
前年度 N2L 総合ランキング TOP 1 0 前年度 PCL 総合ランキング TOP3	9,000 円
学生 JPA パイロット証	9,000 円

PCL エントリー費は以下の表により決定される。（料金には JPA 専用無線機使用料を含む）

	大会 2 日間開催
JPA パイロット証	15,000 円
300 番台のオープンクラス	9,800 円
学生 JPA パイロット証	9,000 円

※PNL 併催で 3 日間開催の PCL は 2 日間開催金額と同一とする。

※PCL リージョナルステージのエントリー費は主催者により決定する。

9.4 ファイナルイベント招待・優待選手

ファイナルイベント（最終戦）直前の大会終了時点の成績が下記のいずれかに該当する選手をファイナルイベントの招待又は優待選手とする。

- ・招待選手のエントリー費は JPA 専用無線機使用料を除き協会負担とする。
- ・優待選手のエントリー費は 9,000 円とする。（JPA 専用無線機使用料を含む）

9.4.1 PNL ファイナルイベント招待選手

- ・ PNL 総合ランキング成績が上位 3 位までの選手
- ・ PNL 女子ランキング成績が上位 3 位までの選手
- ・ 当年度 PNL 各大会において PNL 総合で優勝した選手

9.4.2 N2L ファイナルイベント招待選手

- ・ N2L 総合ランキング成績が上位 3 位までの選手
- ・ N2L 女子ランキング成績が上位 3 位までの選手
- ・ N2L オープンクラスランキング成績がトップの選手
- ・ 当年度 N2L 各大会において N2L 総合で優勝した選手

9.4.3 N2L ファイナルイベント優待選手

- ・ N2L 総合ランキング成績が上位 4 位から 10 位までの選手

9.4.4 PCL ファイナルイベント招待選手

- ・ PCL 総合ランキング成績が上位 3 位までの選手
- ・ PCL 女子ランキング成績が上位 3 位までの選手
- ・ PCL オープンクラスランキング成績がトップの選手
- ・ 当年度 PCL 各大会において PCL 総合で優勝した選手

9.4.5 PCL ファイナルイベント優待選手

- ・ PCL 総合ランキング成績が上位 4 位と 5 位の選手

9.5 主催者費用

大会主催者は以下の費用を JPA に支払うこととする。

- ・ 選手一人当たり ¥1,500 (ナショナルリーグ)
- ・ 選手一人あたり ¥1,000 (N2L, チャレンジリーグ)
- ・ 一大会あたり ¥5,000 (PCL リージョナルステージ)

この費用は事務局の事務運営費、競技事業部の管理運営費に充当させていただきます。

- ・ 大会運営並びにスコアリングのための専任スタッフを JPA より派遣する場合、主催者は、派遣役員に対して食事費用（主催者負担）を負担すること。

滞在中の食事費用（前日の昼食・夕食、当日の朝食・昼食・夕食）、交通費の算出方法は（高速道路距離+60km）×¥30 および高速道路料金の実費とするが、主催者別の格差をなくすため、JPA 公認全大会で必要交通費を均一化する。（交通費計算の別資料参照）

日本パラグライダー協会からの派遣役員(最小)

判定・集計役員 1 名

10 本部施設

主催者は以下の物を大会本部並びにテイクオフ、ゴール地点に準備しなければならない。
また、主催者はスタッフ間の連絡用に業務無線を用意しなければならない。

10.1 本部施設(必ず屋内とする)

- ・ 大会受付、GPS チェックインの為のスペース
- ・ スコアリングのためのターンポイント
- ・ 電話回線
- ・ 気象情報を得るためにインターネット接続回線
- ・ 電源
- ・ 公式掲示板 (1.8m × 0.9m 以上)
- ・ 無線設備 (受信状態を良くするために高々度のアンテナ設備)
- ・ 放送設備
- ・ レスキュー用品、応急処置に必要な装備
- ・ 救急箱、ツリーランセット、水、全身シーネ
- ・ JPA スポンサーメーカーのバナー
- ・ 選手の名札 (裏にタイムスケジュール、大会本部の連絡先等を記載)
- ・ スタッフ用の名札 (裏に緊急連絡先を記載)
- ・ 文具、ガムテープ、ゴミ袋などの消耗品

10.2 テイクオフ設備

- ・ 1本以上の吹き流し
- ・ テイクオフエリアを限定する場合には、ポールとロープによって区画する
- ・ 進入ゲートを作る場合には、ポールとロープによって区画する
- ・ 公式時計用の GPS
- ・ タスクボード (1.8m × 0.9m 以上)
- ・ 公式掲示板 (1.8m × 0.9 以上)
- ・ 放送設備
- ・ 風速計
- ・ 無線設備 (受信状態を良くするために高々度のアンテナ設備)
- ・ レスキュー用品、応急処置に必要な装備
- ・ 救急箱、ツリーランセット、水、はしご、担架
- ・ JPA スポンサーメーカーのバナー
- ・ 文具、ガムテープ、ゴミ袋などの消耗品

10.3 ゴール設備

- ・ ゴールライン (幅 0.5m × 長さ 50m)
- ・ 2 本以上の吹き流し (ゴールライン両側に設置)
- ・ 風速計

- ・ 無線設備（受信状態を良くするために高々度のアンテナ設備）
- ・ ゴールポイント確認、公式時計用の GPS
- ・ 計測用ストップウォッチ
- ・ ランディングゾーン
- ・ パッキングゾーン
- ・ 可能であれば公式掲示板（選手へのアナウンスに使用）
- ・ レスキュー用品、応急処置に必要な装備
- ・ 救急箱、ツリーランセット、水、全身シーネ
- ・ 文具、ガムテープ、ゴミ袋などの消耗品

11 競技に関する規則

11.1 スコアリング

公認大会でレースを行う場合の得点計算は各リーグ競技規定に従うこと。また、パラメータは年度を通じて固定で行うこと

11.2 ソフトウェア

主催者は JPA 競技事業部で認められたソフトウェアを使用し判定を行う。

2015 年度 PNL, N2L 公式ソフトウェアは「Comp-Check」とする。PCL はスコアリングフォーミュラ及び集計ソフトは主催者が選択したものとする。

11.3 競技規則の変更

大会開始後は安全上の理由以外で変更してはならない。ただし協会会長が特に認めた場合はその限りではない。しかし変更した規則を遡って適用することは出来ない。

11.4 公式掲示

- ・ 公式掲示板に救急チャートと救急用品の設置場所を掲示すること
救急箱、ツリーランセット、水、はしご、担架、全身シーネ
- ・ 公式掲示板、タスクボードに気象情報を掲示すること
- ・ 結果の仮発表ならびに公式発表は可能な限り早く掲示すること

11.5 ブリーフィング

タスクブリーフィングはテイクオフで選手全員に対して行うこと。パイロン競技を行う場合には、地図、パイロン写真、タスクボードを用いて行うこと。

11.6 ペナルティー

- ・ 大会規則に違反した選手あるいは役員の指示に従わない選手にはペナルティーを与えることが出来る。その度合いによってタスク失格または大会失格とする。
- ・ 重大な危険行為をした選手および不正を働いた選手はその時点で大会失格とする。
- ・ 大会実行委員長、競技委員長の協議により危険行為に関してイエローカードを発行できる。イエローカードを受けた選手は以降の大会でのセレクションに考慮される。
- ・ イエローカードを無効にするには所属スクールの推薦が必要となる。

11.7 タスクセット

- ・ 競技は行われるカテゴリーの競技ルールに従って行われる。
- ・ 競技タスクは主催される大会に応じたものとする。

11.8 安全について

- ・ 主催者は、選手の飛行を監視しなければならない。
- ・ 競技委員長は空中、地上の気象の変化を観察しながら安全な競技の運営を行わなければならない。競技委員長がテイクオフを離れなければならない時には、代替りの担当者を任命して離れなければならない。
- ・ 事故が起きた場合には、迅速に行動がとれる体制を整えねばならない。

11.9 安全確認

主催者は、選手が安全にランディングした事を出来るだけ早く確認しなければならない。

11.10 タスクボードへの記載事項

- A) 一般 : 日付、大会名、協力エリア
- B) タスク内容 : タスクの種類、タスクディスタンス、ミニマムディスタンス、ゴール
ラインクローズ時刻、ウインドウオープン時刻、ウインドウクローズ
時刻、ランディング報告時刻、帰着申告時刻
- C) 安全に関する情報 : 帰着申告用電話番号、大会本部の電話番号、指定空域でのサーマルの
旋回方向

12 救助方法

12.1 目的

参加選手と主催者、救助隊の連絡体制を確立し、発生したアクシデントに迅速に対応する。

12.2 事故の通報後

- ・ 事故の通報が入った時点から、そのときの時刻連絡内容を記載する。
- ・ 大会役員は飛行中の選手と無線交信を行い、事故現場の GPS コーディネート、地形、海拔高度、グライダーの色、怪我人の名前、エントリーナンバー、怪我の状態を正確に把握する様つとめる。
- ・ どのような救助が必要か見積もる(ヘリコプターが必要かどうか。その他の救助体制)
- ・ 事故の状態を確認できる選手との連絡を続ける。
- ・ 主催者のアシストを出来る選手には、事故現場の近くで安全に着陸できる場所があれば着陸してもらおう要請を行う。
- ・ 主催者は、本部で全体を把握するものと現場へ救助に向かうものとに分かれて行動する。

12.3 事故現場到着後

- ・ 状況を確認しながら本部との連絡を密にする。
- ・ 意識があるかどうか確かめる
- ・ 呼吸を確かめる
- ・ 動けるかどうか確かめる

- ・骨折しているか、開放骨折なのか確かめる
- ・出血があるかどうか、内出血か確かめる

12.4 怪我人の保護と救助

- ・落石を避けるために怪我人には静かに近づくこと。できたら斜面のサイドから、もしくは下からアプローチをかける。
- ・現場の安全を確保する。
- ・怪我人を保護する。
- ・むやみにけが人を動かさないこと。
- ・寒がっていれば、温める。
- ・意識がもうろうとしていても、話し掛けること。
- ・むやみに水分を与えないこと。
- ・救助が到着したら、ヘリコプターが近づける準備をする。(グライダーをたたむ)
- ・山中からの搬送しなければならないときには、その手段を講じる。(その場合にも指示を仰ぐこと)
- ・救急用具の装備品+GPS
- ・救急箱
- ・ツリーランセット
- ・はしご
- ・担架

13 大会報告書

大会報告書は、大会において提出された正式抗議と、それに対する処置を付記して、大会終了後 1 週間以内に JPA 事務局へ提出する。